

令和6年度 第1回 多摩六都科学館組合事業評価委員会 会議録	
日 時	令和6年7月19日（金）午前9時30分から午後0時30分まで
開催場所	多摩六都科学館2階201会議室
次 第	1 開会のあいさつ 2 議題 (1) 令和5年度 自己評価報告に対する質疑応答 (2) 令和5年度 外部評価について（単年度） (3) その他
出席者	委員会：柴田徳思委員長、桧森隆一副委員長、小谷泰弘委員、杉浦幸子委員 事務局：保谷事務局長、豊田管理課長、小菊主査、内木主任、秋山主任 事業評価等支援業務受託者：有限会社プランニング・ラボ（村井代表） 指定管理者：高柳館長、福島 GM、伊藤総務 GL、矢野みらい創造 GL、 石井アテンダント GL、齋藤天文 GL、成田理工 GL、原自然 GL
決定事項	● 令和5年度外部評価委員4名の評定
資 料	資料1 多摩六都科学館 事業評価報告書（案） 令和5年度（2023年度） 資料2 令和5年度（2023年度）多摩六都科学館事業評価 市民モニター一定性評価関連資料集 資料3 多摩六都科学館 令和5（2023）年度3月の事業内容について 資料4 第3次基本計画策定のための子ども意見聴取ヒアリングレポート 資料5 令和5（2023）年度「多摩六都科学館 第2次基本計画 メタ評価調査報告書」 資料6 令和5（2023）年度「多摩六都科学館 第2次基本計画 メタ評価調査報告書」概要資料 資料7 令和5年度 多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理者事業報告書 資料8 多摩六都科学館利用者・駐車場利用台数集計表及び利用料金集計表（歴年度対照表）
<b>凡例</b> 発言者の略記（委：事業評価委員、組：多摩六都科学館組合、指：指定管理者）  以下会議概要 次第1 開会のあいさつ 高柳館長、保谷事務局長より挨拶	

## 次第2 議題

### (1) 令和5年度 自己評価報告に対する質疑応答

#### 事業目標1 科学館事業について

**委：**NINS と連携したシンポジウムはどのような内容でしょうか。参加人数・開催場所も教えてください。

**指：**今回のシンポジウムは、自然科学研究機構（NINS）との協力協定を結ぶにあたり企画され、当館で開催されました。タイトルは「データ蒐集家（しゅうしゅうか）と散策するビッグデータと人はどのように寄り添って生きていくか」であり、遺伝子解析や天文学など様々な分野から5名の専門家を招き、それぞれ約1時間の講演が行われました。全体のコーディネートは自然科学研究機構の坂本先生が担当し、最後のパネルディスカッションでは当館のスタッフが進行役を務め、専門家に質問を投げかける形式で進めました。シンポジウムは13時30分から17時30分までの長時間にわたり、自然科学研究機構に興味を持つ方や多摩六都科学館をご存知の方が参加されました。内容は当館の通常層には難しいものでしたが、専門家の幅広い知識や意見を聴く貴重な機会になったと考えています。

約40名が参加し、学生の方も見受けられました。会場はイベントホールで行いました。

**委：**応募倍率の高いプログラムについては、どのように対応をしていますか。

**指：**応募倍率に関して、具体的な対策を開始しております。一つは、対象を狭めることで倍率が適切になるように調整した結果、一部のイベントでは倍率が落ち着きました。もう一つは、市販の工作キットを使用するものは、同等の工作キットをショップで購入できるようにし、参加できなかった方々にもご自宅で体験してもらうことができるようにしました。それにより、ショップの売り上げも少しくなりました。また、今年のゴールデンウィークでは、多くのお客様が来ると予測できたため、1日に500名を受け入れられるイベント「折り紙で地球をつくろう」を実施し、全員がイベントに参加できるようにしました。応募倍率について対策を始めたところですが、手応えを感じている状況です。

**委：**平日の午前中に様々な大人向け講座を開催していますが、具体的にはどのような講座を行いましたか。また、参加人数も教えてください。

**指：**令和5年度は「周期表から見える世界」を2回、「電子がみちびく化学結合」を2回、「エッセジャーに学ぶ図形と数の性質」を1回行いました。ブラッシュアップをしながら開催しています。会場が科学学習室のため、参加人数は約20～40人です。

**委：**業績指標の「リピーター比率の維持」と「企画展示の満足度」が目標値を割ってしまっていますが、どのように捉えているか教えてください。

**指：**「リピーター比率の維持」は目標の60%から70%に対し、結果として59.2%となりましたが、逆に言うと新規の来館者が少し増加した可能性があるかと捉えています。また、「企画展示の満足度」は77.3%で、目標の80%を達成できませんでした。要因として昨年度は静的な企画展を多く開催したためだと考えます。春に「昆虫細密画の世界—中西章作品展—」、夏に「魚の口 ～食べるは生きる～」、秋に「プラネタリウム100年 歴史としくみ」、今年の春に「多摩六都科学館 30周年 ヒストリー」を開催しましたが、3つとも体験性が少ない企画展であったため、全体的な満足度は例年よりも低下したと感じています。

令和6年度の夏は、生きている昆虫を対面で触れるような体験性の多い昆虫展を企画しており、満足度の改善に向けた計画が進んでいます。

## **事業目標2 地域拠点事業1について**

**委：**平成29年度に比べて、業績指標の「ボランティアの科学館事業への支援延人数」について、ボランティアの方の1日あたりの活動人数が減っています。何か取り組みはありますか。また、年齢構成の課題はありますか。

**指：**令和5年度のボランティア活動人数は1日に約10人でしたが、令和6年度には確実に増加する見込みです。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、急激にコロナ禍前の活動に戻った訳ではなく、手探りをしながら活動を増やしてきた結果、現時点ではコロナ禍前の状態に近づいています。コロナ期間中は新しいボランティアの募集を休止していたため、ボランティアの平均年齢が毎年1歳ずつ上昇していましたが、昨年より募集活動を再開していますので、ボランティアが増えていくことを期待しています。

**委：**カフェについて質問です。コロナ禍から徐々に回復はしておりますが、カフェの採算性、持続可能性についてはいかがでしょうか。

**指：**これまでの事業者については、今年3月初旬に撤退されました。理由は採算性の悪化ではなく、別々の理由で同時多発的に従業員の方が6人退職したためです。

令和6年4月から新しく地元の事業者が運営を行っております。初年度は採算が厳しい予測でしたが、夏休みの状況にもよりますが、利益が出そうな感触があると伺っています。年間目標の40,000人は達成できるのではないかと思います。

**委：**「やさしい日本語」を使ったプラネタリウムというのはどのようなプログラムですか。

**指：**文化庁の「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」に沿った言葉を用いて天文解説を行っています。

### 事業目標3 地域拠点事業2について

**委：**業績指標「上記利用者・参加者の満足度」を令和元年以降取っていないようですが、その理由について教えてください。

**指：**記憶が定かではないのですが、ここは多摩六都の魅力発信という事業で、地域リテラシーの向上や地域のことをどれだけ科学的に見れたかというのを定量的に計るというような細かい項目でした。そのような細かい調査はやめようと協議して決定したと思います。

**委：**文字の説明だけでなく、利用者、参加者の満足度などの数値データも評価するうえで必要ですので、その点について改善していただければと思います。

**委：**圏域5市を別々の時期に行っていた「圏域市民ウィーク」を「たまろくとウィーク」として5市まとめて同じ期間に行っていますが、まとめたことによるプラス面、マイナス面はいかがだったでしょうか。

**指：**プラス面としては、今まで圏域5市で入館料が半額になる時期が異なっており、時期によっては来館できない方がいらっしゃったのですが、時期をまとめて期間を長くしたことにより、来館できる方が増えたかと思います。無料シャトルバスに関しては同時に多くのシャトルバスの手配ができない為、昨年度同様に一週ごとに運行する市を変えました。

マイナス面としては入館者を分散できないので、特に日曜日の雨の日は館内が混雑してしまい、入館者が落ち着いて展示物を見学できなかったことです。

**委：**「たまろくと市民感謝デー」で無料シャトルバスの利用者数が東村山市、清瀬市で多かったようですが、地域的に交通アクセスがよくないからでしょうか。

**指：**人口の比率でみると、シャトルバスの利用率はほぼ同程度です。清瀬市からでは電車ですと公共交通機関1本では来られないので、交通のアクセスがよくないという印象があるのかもしれませんが。無料シャトルバス+入館料無料という2つの仕掛けがあったからいらっしやったと思います。また、今回はチラシによる効果も大きかったです。

東村山市・清瀬市から初めて来られた方にお話を伺ったところ、「チラシを見て、入館料が無料で無料シャトルバスも出るから来た」ということをお聞きしました。

チラシは圏域5市の小学生に、合計約5万6千人配布しました。

市報や地域のタウン誌にもチラシの画像を載せていただいたので、多くの方の目に触れたと思います。

今回初めての取り組みとして、圏域5市内にある西武鉄道22駅にポスターを貼らせていただきました。その影響もあったかもしれません。

無料シャトルバスの利用者数はいずれも往復で、東村山駅東口からが374人、東久留米駅西口からが102人、小川駅東口からが170人、清瀬駅北口からが247人、保谷駅南口からが226人ということでありました。

#### **事業目標4 マーケティングについて**

**委：**サポーター制度が始まって2年目ですが、新たに始まった制度にしては個人会員が減っているのは問題だと感じます。新規の個人会員を増やす方策はありますか。

**指：**サポーター制度は今年度中に個人・団体の両方の見直しを検討しています。インセンティブとなる特典の魅力が弱いと思っています。まだ具体策はないのですが、何年か連続して入会するとコンプリートできるような、ショップでは買えないオリジナルの商品や、サポーター限定のイベントなどを来年度に向けて検討はしております。

**委：**海外の博物館・美術館では、大口の寄付者に対するインセンティブとして一番有力になるのは、館長とお食事会になります。館長とお食事会をして科学談議ができることが、インセンティブになります。

**指：**勉強になりました。

**委：**年間約20万人の利用者数に対してアンケート数が545件という結果について、回収率を上げる方策はどのようなことをお考えですか。

**指：**昨年度は夕方にお客様に声をかけてタブレットによるアンケートをしていました。詳細なアンケートを取っていたため回答に時間がかかり、回収率が低く、結果としては0.27%の回収率でした。

また、「たまろくと市民感謝デー」の時には、試験的に全員アンケートという方法で行いました。結果としては73.4%の回答率でした。街頭インタビューのようにボードにシールを貼る形式にしました。このやり方を少し応用して年間10回くらい来館者が多い時に行う予定です。

**委：**来館者がQRコードを読み取って回答をする方法でのアンケートは行わないのですか。

**指：**当館の特性として、小学生以下のお客様が非常に多いので回答者に偏りが出るため、行っていません。

**委：**回答者に偏りが出たとしても、小学生と一緒に来る保護者の意見も貴重なので行ったほうが良いと思います。ここに出てくる否定的な意見にどう対応するかを考えることが重要だと思います。サポーターのインセンティブ同様に、アンケートのインセンティブはどうでしょうか。

**指：**アンケートの回答者にペガロクシールを渡すような方法を考えています。

**委：**シールではなく、入館料の割引のような方法はいかがでしょうか。

**指：**ご意見ありがとうございます。先生がおっしゃったQRコードで回答するアンケートは、普通の博物館などでの回答率はどのくらいなのでしょう。

**委：**調査をしていないので、分かりません。やり方としてはとにかくどこにでもQRコードを貼って、正確でなくてもよいので、データ数を増やしていくことです。今後科学館が50年、60年続いていくために利用者満足度などのデータを取って見える化していけるとよいと思います。

**指：**勉強になりました。一般の評価として、満足度が非常に大切であることを教えていただきましたので、その点にもう少し重点を置いて軌道修正をしていこうと思います。

**委：**イベント等の活動に対するニュースリリースはどのくらい記事になりましたか。

**指：**今年度の新たな取り組みとしてPR TIMES という配信サービスに登録をしました。ここに投稿をすると、興味を持ったメディアがニュースとして取り上げてくれます。月に2本記事を投稿できる契約を行っておりますが、6月は約30社のメディアが記事にしてくれました。

それ以外にもXやfacebookなどに毎月20~30件アップしています。

また、資料7事業報告書73ページの「④マスメディア等の活用」に記載のとおり、実績がありました。新聞に19回、雑誌ほかに57回、テレビ放送に11回、ラジオ放送に17回、WEBに64回掲載されました。

あと、市報にも必ず毎月2回掲載依頼をしております。プレスリリースについては、昨年度月1本を目標にしておりまして、実績は10本でした。

**委：**未来館者を獲得するには情報を伝えることが大切です。XやInstagramに活路があると思っています。Instagramのフォロワーは今何人ぐらいですか。

**指：**約4,000人です。Instagramに力を入れている他の科学館だと年間入場者数の10倍くらいの登録者数があるので、それと比較をすると非常に少ないです。

**委：**多摩エリアに存在感を示せる科学館ですのでInstagramを活用して、活路を見いだせると良いなと思いました。

**指：**ありがとうございます。Instagramの運営において、昨年度は担当者を設けて2日に1回くらい投稿していたものの、フォロワーが増えないため、一時的に運営を停止しました。今年度は、圏域の大学生を対象にロゴの公募を行うのと並行して、SNSに関する支援を約1か月間公募しましたが、応募はゼロでした。SNSの運用に関しては自分たちの力では限界があると感じており、若い大学生や主婦など、SNSに精通した人達に支援を依頼する方向で検討しています。また、既に影響力を持っている方のお力を借りる方が、目標達成に近づけるのではないかと考えています。

#### **事業目標5 財政計画・体制整備について**

**委：**利用者数が増えているのに利用料金収入が減っているのはなぜですか。また、利用料金収入には売店の売上なども含まれますか。

**指：**無料時の来館が多かったことと、新1年生に配布している無料チケットの利用率が少し高かったからだだと思います。利用料金収入はチケット代(入館・観覧料)＋駐車料金のみで、売店の売上は含まれません。

**組：**補足をいたします。利用料金には入館料と合わせて観覧料・駐車場料金が含まれますが、今回事務局として気になったのは観覧料の部分です。観覧料が去年より若干少ないです。観覧料はプラネタリウムか大型映像を観覧した料金です。昨年はプラネタリウムがちょうど100周年ということがあり、100周年にちなんだ大型映像の上映を指定管理者さんも思い切って取り組みました。このプログラムはプラネタリウムの機械の内容でしたので、結果としてコアなファンにしか受けなかったということがあります。このようなことなどにより、観覧者数減少＝利用料金減収になってしまいました。

**委：**入館してから観覧料以外に有料のプログラムはどのくらい行っていますか。

**指：**科学学習室を使って土日に行くプログラムでは、100円のものもあれば数千円が必要なものもあります。

**委：**応募数が10倍を超えるプログラムの状況はどうですか。

**指：**最近行ったプログラムですと既製品の時計に鉱物を貼ってオリジナルの時計を作るプログラムがあったのですが、それは4,000円でした。鉱物代が高いので、ほぼ実費です。

**委：**公的サービスとしてどこまでほぼ実費で行うか。他にも圏域外の方は少し高くして収入を増やす方法もあるかなと思います。

**指：**ありがとうございます。スタッフの間で検討する必要があるかなと話しているのは野外観察会です。現在は50円しか取っていないです。公共施設においてどこまで費用を取って良いか悩んでいます。

**委：**他館のことを調査をして適切な価格設定を模索されていった方がいいかなと思います。また、参加者に聞いて適正金額かどうかを調査することも一つの方法だと思います。

利用料金は、議会での議決が必要だからなかなか難しいかもしれないけど、ワークショップの参加費などは指定管理者の裁量で決められることになっていますよね。私も浜松市鴨江アートセンターで指定管理者をしています。子どもなどが参加するワークショップの基本料金を材料費込みで500円としています。価格を見直されたらと思います。

**委：**経年劣化による施設設備や展示物の故障・補修についてはどのように予算を付けていますか。

指：60万円以下は指定管理者側、60万円超えは組合側で対応をしています。60万円超えに関しては、今年度はムーンウォーカーのコンプレッサー交換があります。

#### ①事業計画について

委：圏域5市内のアウトリーチ活動についてです。自己評価結果で圏域小学校に対して延べ10校とありますが、一番多かった時と比べてどうですか。どのようなテーマで行っていますか。

組：これまでの実績では、令和2年度の11校が最大です。業績指標では毎年10校を目標にしており、10校の申込みがあった段階で申込みを締め切っています。実施テーマは「空気の性質をたしかめよう」と「プログラミングを体験しよう」であります。

委：なぜ10校で募集を締め切るのですか。アウトリーチは地域で科学館の存在感を示すのにとっても有効ではないでしょうか。10校ではなく、全校に行くのが一番いいかと思うのですが、いかがですか。

指：科学館内での運営もあるので、全校対応となると館内スタッフがいなくなってしまうので、最大10校までとしています。アウトリーチで行う授業内容は科学館でも受けられるので、多くの小学校は科学館に見学に来た時に授業を受けています。

圏域5市内に公立小学校は73校あって、資料7事業報告書38ページのとおり、3,598人(43校)が科学館内で受講しました。アウトリーチに関しては事業報告書41ページのとおり、10日間で7校に伺って15回の授業を実施し、合計532人が受講しました。

委：資料が分かりにくいので工夫・改善をお願いいたします。指定管理者の仕事と組合の仕事の切り分けが明確になっていると分かりやすいと思います。

組：第3次基本計画を運用していく中で、業績指標の検討で明確化していければと考えています。

委：博物館法への対応はどういうことが必要になると思いますか。

組：博物館法の旧法で博物館相当施設の指定は受けておりますが、新法の制度運用に合わせて令和9年度までにもう一度指定の申請及び手続きを行わなくてはなりません。昨年度から経過措置期間に入っていますが、令和9年度までに指定管理者さんに協力をいただきながら確実に指定の申請手続きを完了させたいと考えています。

また、毎年、東京都の教育委員会から資料の収集方針等の調査がきています。博物館相当施設として役割を担う施設ですので、方針等も定めていく必要がありますので、具体策を検討していきたいと考えています。

寄贈品が増えてきており、収蔵庫がひっ迫しています。福島 GM からのご意見として上がっておりますので、お金がかかる話ではありますが、今後の課題として考えていきたいです。

## ②経営計画について

委：質問ではないですが、元ジュニアボランティアへのヒアリング調査の資料（資料 4）はとても感動しました。これからも卒業生のジュニアボランティアの意見をまとめると良いと思います。

組：ありがとうございます。このような継続的ユーザーへのインタビューの取り組みはとても労力がかかりますが、若い方々がどのように科学館を評価してくれているかを感動するくらい分かりましたので、引き続き取り組んでまいりたいと考えています。

委：ジュニアボランティアへの聞き取りは指定管理者も含めて行うように、次回はお願いいたします。

組：指定管理者の皆さんにもお声掛けをしてお都合のつく方には同席していただこうと考えてまいります。

委：今後の評価の設定について「指定管理者の皆さんはどのような点を評価されたいのか」を必ず項目として取り上げるようお願いいたします。そこだけは自分たちは一生懸命やるので、そういうところを評価されたいということを取り上げるようお願いいたします。

## 総評について

質問なし

（休憩 5 分間）

（2）令和 5 年度外部評価について（単年度）

事業目標 1 から総評まで 8 つの評価項目について、小谷委員、杉浦委員、柴田委員長、桧森副委員長の順で評定を行った。

委員会としての総合評定については、本日欠席の佐々木委員の評定結果が出た後に、決定することとした。

(3) その他

組合事務局より今後のスケジュールについて説明を行った。

閉会